文部科学省後援 PDA 全国高校即興型英語ディベート合宿・大会 2025 報告書

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

日程： 2025 年 8 月 1 日（金）～2 日（土）
（1 日目）練習 3 ラウンド、予選 1
（2 日目）予選 2、予選 3、キーノートレクチャー、レクリエーション、準決勝、決勝
会場：Zoom にてリモート開催
主催：一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会（ＰＤＡ）
共催：大阪公立大学
後援：文部科学省
助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団
一般財団法人 三菱みらい育成財団
協賛：公益財団法人 Tazaki 財団、株式会社ダンケゼア

参加者数：高校生 363 名（44 校・106 チーム）

参加高校：44 校 106 チーム
（岩手県）岩手県立花巻北高等学校、岩手県立一関第一高等学校、岩手県立盛岡第一高等学校（茨城県）東洋大学附属牛久中学校・高等学校（栃木県）栃木県立宇都宮高等学校、作新学院高等学校（群馬県）群馬県立太田女子高等学校（埼玉県）埼玉県立川越女子高等学校（千葉県）千葉県立船橋高等学校、翔凜高等学校（東京都）品川女子学院高等部、獨協中学・高等学校（神奈川県）神奈川朝鮮中高級学校、茅ケ崎北陵高等学校、慶應義塾高等学校、栄光学園高等学校、浅野高等学校、湘南白百合学園高等学校、神奈川県立湘南高等学校、神奈川県立相模原高等学校、神奈川県立柏陽高等学校、聖光学院（福井県）福井県立藤島高等学校（長野県）長野県諏訪清陵高等学校、長野県松本県ヶ丘高等学校、長野県屋代高等学校、長野県長野高等学校（岐阜県）岐阜県立岐阜高等学校（愛知県）南山高等学校女子部（三重県）三重県四日市高等学校（京都府）京都府立嵯峨野高等学校、ノートルダム女学院高等学校（大阪府）関西創価高等学校、関西大倉高等学校、大阪青凌高等学校、大阪女学院高等学校（兵庫県）雲雀丘学園高等学校、神戸大学附属中等教育学校（岡山県）岡山県立岡山大安寺中等教育学校（徳島県）徳島県立徳島北高等学校、徳島県立城ノ内中等教育学校（福岡県）福岡県立城南高等学校（沖縄県）沖縄県立具志川高等学校、沖縄県立前原高等学校（順不同）

開催趣旨：

〈高校生向けプログラム〉

本合宿・大会は、即興型英語ディベートの実践を中心としたプログラムで、集中的に「英語での発信力」、「論理的思考力」、「幅広い知識」、「プレゼンテーション力」、「コミュニケーション力」を鍛えます。大学生・大学院生、PDA 認定教育ジャッジによる手厚い指導も伴い、効果的に上記スキルを向上させます。また他校生徒との交流も深まります。初心者の方も歓迎です。高校生向けのプログラムでは、合宿での集中実践の成果を効果的に発揮できるよう、後半には大会を設けています。

〈教員向けプログラム〉

本合宿・大会では、生徒のみならず、教員を対象としたプログラムを同時に進行させます。2022 年度からの「論理・表現」をはじめ、授業に導入できる即興型英語ディベートの手法を知っていただく、また即興型英語ディベート実践を経験していただくプログラムとなっています。授業での導入を前提とするため、合宿では一つのセッションを 50 分としています。また、効果的なプログラムを共に開発するための意見交換会も設けています。

論題（論題は、毎回ディベート開始 15 分前にはじめて発表されます）：

論題 1： Japan should make voting compulsory.

（日本は投票を義務化するべきである。）

論題 2：Japan should abolish the consumption tax.

（日本は消費税をなくすべきである。）

論題 3：‘Japanese First’ brings more benefits than harm.

（日本人ファーストは害よりも利益をもたらす。）

論題 4：All countries should eliminate tariffs.

（すべての国は関税を撤廃すべきである。）

論題 5： Art education should be a required part of scientific training.

（アート教育はサイエンスの養成において必修とすべきである。）

論題 6： Debate feedback is better provided by AI than by teachers.

（ディベートのフィードバックは、教員よりも AI にしてもらうほうがよい。）

論題 7： Palestine should be recognized as a state.

（パレスチナを国家として認めるべきである。）

論題 8：Japan should construct new nuclear power plants.

（日本は原発を新設すべきである。）

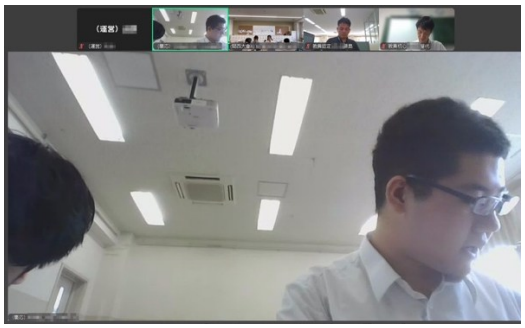
1 日目

開会式は、全国から集結した全 106 チームの紹介から幕を開けました。参加者の熱気が画面越しにも伝わる中、PDA 認定教育ジャッジの先生、運営スタッフの紹介、そして合宿のスケジュールやルールに関するアナウンスが行われました。その後は、「授業の部」「課外活動の部 初心者」「課外活動の部 一般」「教員の部」の各カテゴリーに分かれ、プログラムが同時進行で展開しました。中でも「授業の部」は、即興型英語ディベートを授業で実践している学校を対象としており、日頃の学びを存分に発揮する舞台として機能しています。また、「教員の部」の受験コースでは、PDA 認定教育ジャッジの取得を目標に、教員がディベート実践とジャッジ実践に取り組みます。

開会式の様子・POI の練習

練習ラウンド 1 の論題は「日本は投票を義務化するべきである。」でした。この合宿・大会の最初のラウンドということで、緊張したり張り切ったりしている様子が見られました。Government（肯定側）Opposition（否定側）双方から、「日本の政治をよりよくするためには」という観点に基づいて立論がなされ、白熱した議論が行われました。時間が余った時には繰り返し説明を行ったり、即興で具体例を提示したりしてラウンドを盛り上げていました。勝敗を待っている間には、ディベーター間での交流が積極的に行われました。生徒たちはそれぞれの学校について話したり、地域の特色を共有したりして、中々出会うことのない全国から集まった仲間との会話に花を咲かせていました。

授業・課外初心の部：作新 D VS 川越女子 B



授業・課外初心の部：慶應 VS 関西大倉 A

練習ラウンドでは、生徒にもジャッジ役が割り振られ、他のチームのディベートを客観的に評価するトレーニングが行われました。自ら導き出した勝敗とその理由を、教員ジャッジによる判定と照らし合わせることで、判断基準や説得力の違いに気づく貴重な学びの機会となりました。何が説得力を生むのか、どの論点が評価に直結するのかを実感しながら、より深くディベートを理解する時間となりました。

課外一般の部：握手（相模原 1・獨協 2）

課外一般の部：交流（栄光 1・茅ケ崎北陵 1）

練習ラウンド 2 の論題は「日本は消費税をなくすべきである。」でした。経済に与える影響や人々の生活の質など多様な観点からの説明があり、最終的にどちらの主張の方が信頼できるのかなど議論を深めていました。Government（肯定側）は「消費税の逆進性」や「経済の活性化」について、Opposition（否定側）は「財源の減少」や「市場の混乱」について立論し、ディベートを行いました。高校生と同じ論題で、教員によるディベート実践も行われました。実際にディベートすることで生徒の感覚を掴んだり、POI の行い方などを把握したりする機会となりました。

授業・課外初心の部：POI（船橋 B）

課外一般の部：握手（岐阜 1・ノートルダム 1）

受験コースに参加している教員によるディベート（POI・ディベート後の握手）

練習ラウンド３の論題は「日本人ファーストは害よりも利益をもたらす。」でした。多文化共生や文化の保護、経済への影響、アイデンティティなど、様々な観点から議論が交わされました。１日目の最後は、予選１が行われました。予選１の論題は「全ての国は関税を撤廃するべきである。」でした。関税の撤廃により国内の産業は衰退するのか、はたまた競争の機会を得てさらに成長するのか、発展途上国への影響はどうなのかなど、様々な議論が交わされました。ディベート後には、生徒たちはジャッジより勝敗の説明と個人フィードバックを受けました。翌日に続く予選のために、一人一人が真剣な表情でジャッジの言葉に耳を傾け、質問をする様子も盛んに見られました。

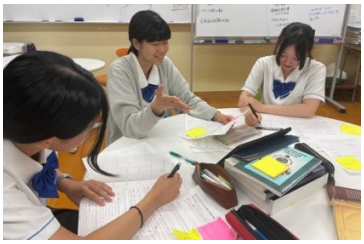
授業・課外初心の部：具志川 A VS 牛久 B

予選 Round1：POI（川越女子 A VS 岐阜 A）

予選 Round1：POI（大阪青凌 VS 宇都宮）

予選 Round1：握手（神奈川朝鮮・具志川 B）

雲雀丘学園高等学校・実践の様子



ノートルダム女学院高等学校・実践の様子

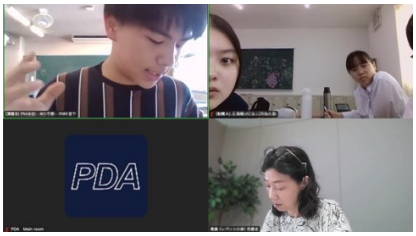
2 日目

2 日目は、各校の出席確認を終えた後、予選第 2 ラウンドが実施されました。論題は「アート教育はサイエンスの養成において必修とすべきである。」でした。参加者たちは、アートとサイエンスの関係性について深く思索しながら、自らの立場を練り上げ、説得力あるスピーチを展開しました。アート教育は科学的思考をいかに支えるのか、あるいはそうではないのか、白熱した議論が繰り広げられました。

関西大倉 A VS 品川女子 B

長野 A VS 作新 B

松本県ヶ丘 B VS 作新 C



諏訪清陵 B VS 船橋 A

川越女子 A VS 城南 A

栄光 1 VS 聖光

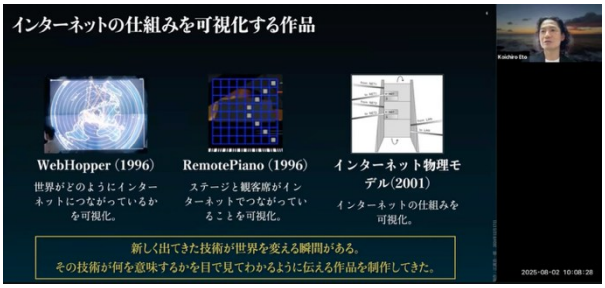
浅野 1 VS 一関第一 2

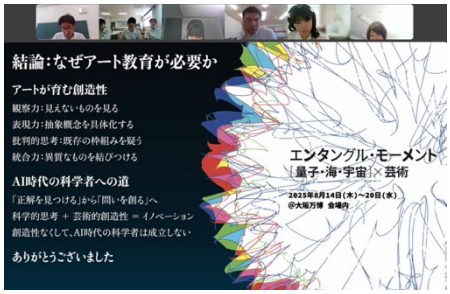
浅野 2 VS 栄光 3

交流の様子（岡山大安寺 1・ノートルダム 2）

ジャッジコメント（湘南・一関第一 3）

予選 2 の論題に関連して、メディアアーティストで ZEN 大学教授の江渡浩一郎先生からキーノートレクチャーをいただきました。歴史的な観点から現代をめぐるアート×サイエンスについてご講義いただきました。質疑応答の時間は、ディベートを通してアート教育やアートとサイエンスの関わりについて考えた高校生や教員から質問の手が上がり、このテーマについて理解を深める時間となりました。





キーノートレクチャーの様子

続く予選第 3 ラウンドの論題は、「ディベートのフィードバックは、教員よりも AI にしてもらうほうがよい。」でした。生徒たちは、日々ディベートに取り組む当事者として、AI によるフィードバックの長所と短所を真剣に吟味しました。Government（肯定側）は「AI の分析精度」や「教員の負担軽減」といった利点を挙げ、Opposition（否定側）は「教員ならではの洞察」や「生徒に寄り添った指導」の重要性を主張し、実体験に根ざしたリアルな議論が展開されました。

ディベート後の握手の様子（松本県ヶ丘 D・花巻北 B）

昼食時間には、Zoom を用いたレクリエーションが行われました。生徒たちはブレイクアウトルームに分かれ、学校に関するクイズで盛り上がっていました。クイズは事前に生徒たち自身が作成したもので、「校章にあしらわれている動物は？」など、ユニークで個性あふれる問題が揃い、笑顔と交流が広がる楽しい時間となりました。

レクリエーションの様子

また、文部科学省の事業に採択された AI ディベートシステム（DebateSpeech）について、AI を活用した英語授業に取り組んでいる兵庫県・雲雀丘学園高等学校の教員から、実践事例の紹介がありました。「教員だけではできないことも、AI を活用することで可能になります。相互に補完し合いながら、より良い授業を実現したいという思いから導入しています」と、背景とともにご説明いただきました。

文科省事業・AI ディベートシステムを用いた教育活動に関するご紹介

午後には、授業の部および課外活動の部（一般）の準決勝進出チーム、さらに課外活動の部（初心者）の決勝進出チームが発表されました。準決勝・決勝の論題は「パレスチナを国家として認めるべきである。」という国際的な時事問題を扱う難問。生徒たちは最近のニュースや歴史的背景を思い浮かべながら、真摯にこの課題に向き合っていました。また、受験コースの教員はディベート実技試験に向けてディベート実践を行い、POI も交わしながら同じ論題について議論しました。試合後には、参加していた ALT に対する国際的観点からの質問が寄せられるなど、教員同士の意見交換も活発に行われました。

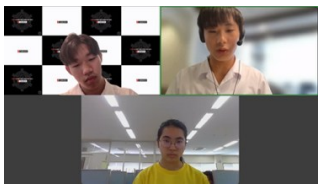
授業の部・準決勝：作新 B VS 城南 A

授業の部・準決勝：神奈川朝鮮 VS 城南 B

課外の部（初心者）・決勝：前原 VS 神大附属

課外の部（一般）・準決勝：聖光 VS 船橋 1 ・ 藤島 1 VS 岡山大安寺 1

合宿の締めくくりは、授業の部および課外活動の部（一般）の決勝戦。論題は「日本は原発を新設すべきである。」でした。多くの観客が見守る中、参加者たちは堂々と自らの意見を述べ、エネルギー政策や原発の安全性といった現代的な課題に鋭く切り込みました。2 日間の集大成にふさわしい、熱気あふれる議論となりました。



課外の部（一般）・決勝：聖光 VS 藤島 1

授業の部・決勝：神奈川朝鮮 VS 城南 A

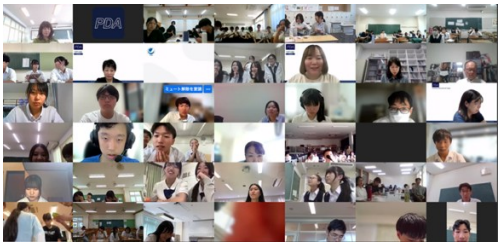
表彰式では、決勝戦の結果発表と表彰が行われ、会場は参加者からの惜しみない拍手に包まれました。優勝チームの中には、昨年の準優勝という悔しさを乗り越え、見事に雪辱を果たした生徒の姿もありました。代表としてコメントを求められた生徒は、「成長の機会を得られたことに感謝したい」と笑顔で語っていました。

ベストディベータ賞
（ノートルダム）

ベスト POI 賞
（ノートルダム）

ベストディベータ賞
（松本県ヶ丘）

ベストディベータ賞
（徳島北）



閉会式の様子

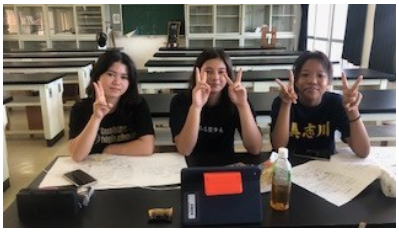
学校・チーム集合写真

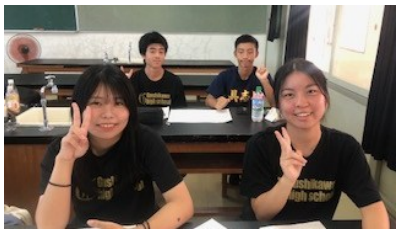
雲雀丘学園高等学校

長野県松本県ヶ丘高等学校

関西創価高等学校

埼玉県立川越女子高等学校





沖縄県立具志川高等学校

福井県立藤島高校

神戸大学附属中等教育学校・課題の部（初心者）優勝チーム

結果

チーム賞（授業の部）
優勝：　神奈川朝鮮中高級学校
準優勝：福岡県立城南高等学校 A
3 位：　福岡県立城南高等学校 B、作新学院高等学校 B

チーム賞（課外活動の部　初心者）
優勝：　神戸大学附属中等教育学校
準優勝：沖縄県立前原高等学校

チーム賞（課外活動の部　一般）
優勝：　福井県立藤島高等学校 1
準優勝：聖光学院高等学校
3 位：　千葉県立船橋高等学校 1、岡山県立岡山大安寺中等教育学校 1

ベストディベータ賞（授業の部・課外活動の部初心者）※★は 3 回選ばれた生徒

＿＿＿さん（牛久 A）★
＿＿＿さん（川越女子 A）★
＿＿＿さん（船橋 A）★
＿＿＿さん（大阪青凌 A）★
＿＿＿さん（具志川 A）★
＿＿＿さん（牛久 C）
＿＿＿さん（作新 B）
＿＿＿さん（品川女子 C）
＿＿＿さん（茅ケ崎北陵 A）
＿＿＿さん（慶應）
＿＿＿さん（藤島 B）
＿＿＿さん(前原)
＿＿＿さん（松本県ヶ丘 D）
＿＿＿さん（屋代 A）
＿＿＿さん（嵯峨野）
＿＿＿さん（関西大倉 A）
＿＿＿さん（関西大倉 B）
＿＿＿さん（神大附属）
＿＿＿さん（城ノ内 A）
＿＿＿さん（具志川 B）
＿＿＿さん（神奈川朝鮮）

ベストディベーター賞（課外活動の部　一般）※★は 3 回選ばれた生徒

＿＿＿さん（船橋 1 ）★
＿＿＿さん（湘南）★
＿＿＿さん（四日市）★
＿＿＿さん（ノートルダム 2 ）★
＿＿＿さん（一関第一 1 ）
＿＿＿さん（一関第一 2 ）
＿＿＿さん（相模原 1 ）
＿＿＿さん（柏陽 3 ）
＿＿＿さん（聖光）
＿＿＿さん（藤島 2 ）
＿＿＿さん（諏訪清陵 1 ）
＿＿＿さん（屋代 1 ）

_____さん（翔凜１）
_____さん（獨協１）
_____さん（獨協２）
_____さん（栄光２）
_____さん（浅野１）
_____さん（浅野２）
_____さん（湘南白百合）
_____さん（岐阜１）
_____さん（南山）
_____さん（大阪女学院１）
_____さん（岡山大安寺１）
_____さん（岡山大安寺２）
_____さん（徳島北１）

ベスト POI 賞（授業の部・課外活動の部初心者）※★は 3 回選ばれた生徒

_____さん（川越女子 B）★
_____さん（船橋 B）★
_____さん（船橋 A）★
_____さん（大阪青凌 A）★
_____さん（大阪青凌 B）★
_____さん（牛久 B）
_____さん（作新 A）
_____さん（城南 D）
_____さん（一関第一 A）
_____さん（品川女子 B）
_____さん（品川女子 A）
_____さん（諏訪清陵 A）
_____さん（諏訪清陵 A）
_____さん（雲雀丘）
_____さん（神大附属）
_____さん（城ノ内 B）
_____さん（具志川 A）
_____さん（具志川 C）

ベスト POI 賞（課外活動の部　一般）※★は 3 回選ばれた生徒

_____さん（栄光３）★
_____さん（浅野１）★
_____さん（相模原２）★
_____さん（相模原３）★
_____さん（屋代２）★
_____さん長野２）★
_____さん（船橋１）
_____さん（栄光２）
_____さん（茅ケ崎北陵１）
_____さん（相模原１）
_____さん（柏陽１）
_____さん（聖光）
_____さん（岐阜１）
_____さん（四日市）
_____さん（ノートルダム２）
_____さん（大阪女学院１）
_____さん（岡山大安寺１）

アンケート（抜粋）

●生徒の声

・すごく楽しかったです！！（岩手県立一関第一高等学校）
・とてもためになったので今後もこのような大会に参加したい。（長野県松本県ヶ丘高等学校）
・論題が面白くて楽しかったです。（湘南白百合学園高等学校）
・ジャッジの方はどのような観点で私たちのスピーチを見ているの勉強になりました。（群馬県立太田女子高等学校）
・全国の人とディベートでき、楽しかった。（神奈川県立柏陽高等学校）
・今回勉強したことをこれからに活かしていきたいと思います。（徳島県立徳島北高等学校）
・様々なことを学べたり社会情勢について深められたので良かったです。（埼玉県立川越女子高等学校）
・皆さんのレベルが非常に高くて、とてもよい刺激になりました。他校の生徒との交流の機会はなかなか無いので、その点も良かったです。（岐阜県立岐阜高等学校）
・様々な意見を得ることができて非常に満足しました。（京都府立嵯峨野高等学校）
・2 日間を通して、自分の新たな強みや気づいていなかった課題、次に活かしていけるフィードバックを頂き、とても学びに繋がる良い機会になりました。（岩手県立花巻北高等学校）
・自身の英語スキルを挙げられたと思う。単語だけではなく、話す時の順序やわかりやすく話す方法もわかってきて、今後に生かせるとても大切なものを得られたと思う。（作新学院高等学校）
・実りの豊かな体験を多く積むことができました。ディベートスキルが向上したのを感じました。（千葉県立船橋高等学校）
・自分の未熟さを感じれてよかったです。英語力を磨いて自分も自身の考えを伝えられるようにしたいです。英語力だけでなく世界情勢にも強く興味を持とうと思いました。（大阪女学院高等学校）
・今回の論題は、最近話題になっていることが多く、非常に学びの多いディベート大会でした。ありがとうございました！（京都府立嵯峨野高等学校）
・今回は特に時事に基づくお題が多く、また、キーノートスピーカーの話もあり、新たに学ぶことも多く参考になりました。（神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校）
・昨年は見学で、実際に参加したのは今年初めてだったので、とても緊張してたくさんミスをしたり上手く文章が作れなかったりしたけれど、強い学校とたくさん戦えたことは本当に貴重な経験ができたなと感じています。勝ち負け関係なく、自分の成長につながる試合がたくさんできたので、大会に参加してよかったと思います。（群馬県立太田女子高等学校）

・とてもよい経験になりました。英語ディベートをして間もない私ですが様々なディベーターと出会い意見を深められたのではないかと思います。勝敗はともかく最近の社会の問題をこのような形で学生が話し合える機会はなかなか取れないと思います。そのような貴重な体験を学べ、これからのディベートをさらによくしようと思えました。本日は本当にありがとうございました。(関西創価高等学校)
・初めての全国大会でとても緊張しましたが、自分の仕事がディベートで活かせたり、褒められた時はとても嬉しくて、でも相手が強くて勝てなかった時もありましたが、「全国のレベルは高いけどやっぱりディベートは楽しいな」と思えた大会でした。(長野県松本県ヶ丘高等学校)
・他校との交流も楽しかったし、何より、今までできなかったことができる感覚があってそれが楽しかった。(慶應義塾高等学校)

●教員の声
・広いレベルを対象にしていて良いと思います。
・生徒がやる気になります！
・英語力向上という観点だけでもすごい効果があると思いました。もっと広がっていくと良いと思います。
・今回の合宿・大会を通じて、他校の生徒との交流ができたことは非常に貴重な経験となりました。普段の学校生活ではなかなか得られない刺激を受け、視野を広げることができました。また、試合後にジャッジの方々から丁寧なフィードバックをいただけたこともありがたかったです。それぞれのアドバイスが今後の取り組みの大きな糧となり、自分たちの課題を具体的に見つける手助けとなりました。さらに、緊張感のある本番の雰囲気の中で試合に臨んだことで、生徒たちは精神的にも大きく成長したと感じています。本気で挑むからこそ得られる達成感や悔しさを味わい、それを次への原動力にできる場だったと思います。このような素晴らしい機会をいただけたことに心より感謝いたします。
・大変勉強になりました。今後授業で参考にしていきたいです。
・生徒にとって貴重な経験となりました。
・ラウンドが多くて鍛えられました。モーションも多岐に渡っていて、面白かったです。
・様々なテーマで即興型英語ディベートへの理解を深め、学ぶことができた。
・楽しかったというと語弊がありますが、今までになく脇汗かく緊張を経験させていただきました。高校生の皆さんが本当に頑張って話そうとしている姿に、身の引き締まる思いでした。
・認定ジャッジ受験コースでのディベート実践は大変楽しく、勉強になりました。
・一緒のグループになった先生方がとても優しく、知識豊富でとても刺激になりました。スタッフの方々の明るさと明晰さがとても刺激を受けました。